
ある老魔術師の記憶

桜月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ある老魔術師の記憶

【Nコード】

N1362S

【作者名】

桜月

【あらすじ】

ある老人が少年に語り始める昔話。

この昔話には沢山の思いが込められていました…

本編は ある魔術師の物語 言話からです

ある老人による回想 零章（前書き）

初めて書く連載小説です。どうぞ読んでやって下さい）

ある老人による回想 零章

「おじいちゃん!!」

その声にふと、縁側から玄関を見る。

黒髪黒眼、頬に絆創膏を付けた十歳位の活発そうな男の子が手を振っていた。

この子は別にわたしの孫、と言うわけではない。

ただ、わたしが近くの公園を散歩している途中にこの子がいじめられているのを見つけたから助けてあげた、そしたら懐かれた。

…いや、厳密には助けてあげようとしていた、なのかも知れない。

わたしが直接いじめっ子達に少しお灸を据えた、とかではないのだ。

ただこの子を助けようとした時、いじめていた子達は威勢だけはよかったから

「なんだよ!じいさんは引っ込んでろよ!!」

とか舌つ足らずの声でリーダーらしい子供が威嚇してきた。もちろん怖くもなんとも無かった。

それどころか、わたしはその時思わず笑ってしまっていた。かわいいと思ったのと、威張ったようなその顔が、昔の知り合いに少し似ていたから。

でもそれはその子のプライドを傷つけてしまったようで、少し泣きそうになりながら

「覚えてろよー!」とか叫びながら走りさってしまった。

仲間の子達も走りさった子を追って去っていく。

…そんなやりとりがあっただけ。やりとりとも言えないのかも知れないが…

まあこの子は助けて貰ったと捉えているようだけど。

ちなみに、わたしはこの子の名前を聞いてはいない。

自分から言ってくれれば覚えはするが、わたしの方からは聞く気は全く無い。

わたしは少し事情があつてこの40年間、人間関係なんかは最低限の接触や会話で済ませていた。

いじめっ子からこの子を助けようとしたのも実のところ只の気まぐれだったのだ

わたしは他人への興味が薄くなったのかもしれないな、などと少し考えてみる

「ねえ！おじいちゃん！今日もお話してよ！」

ガクガク揺さぶられて、この子がわたしの肩を揺さぶったのだと気づいた。

意識が少し飛んでいたようだ。

お迎えが近いのか？

「おじいちゃん！！寿命なの！？」

全く、失礼な子だ。苦笑しつつ顔をこの子に向ける。

「はいはい、どの話がいいんだい？」

少し投げやり気味に問いかけるも、この子は笑顔で「最初から！」などと叫ぶ。

「この前もはなした話かい？最初から？」

そう聞くと

「うん、最初から!」と言ってきた。

わたしはこの子が一度言い出した事に対して、説得する方が時間がかかる事をこの前身を持って知ったので、ただ話し始める。

「そうだね、では」

遠い日の思い出を

ある老人による回想 零章（後書き）

えーと、どうでしたか？（汗）

拙い文章なのでどこか文章に変な所があったでしょうが、さうりと流して下さると嬉しいです。

では、出来れば続きでお会いしましょうm（）（）m

ある魔術師の物語 設定（前書き）

一応世界観や設定など。

ありふれている設定かもしれませんが、この設定で頑張りますm)

——) m

PS

登場人物などを増やしたら追加していきます

ある魔術師の物語 設定

世界観

今現在、科学技術が進歩した私達の世界とは異なった進歩を遂げた平行世界の一つ。

魔術師や召還師などが職業として普通にあるファンタジー世界。世界が6つの大陸で構成されている。

大陸名

火の元素の大陸

フレアス

風の元素の大陸

ウインス

水の元素の大陸

アリアス

土の元素の大陸

トールス

光の元素の大陸

ホリアス

闇の元素の大陸

メシアス

これらの大陸から溢れ出した元素が混ざり合い魔力となり、魔術が使えるようになる。

ちなみに応用も可能で、風と光の魔力を混ぜる事で雷を打ち出す事も可能。ただし魔力を2つやそれ以上を混ぜる事を複合魔術といい、高度な技術が必要とされる。

そして火と水、光と闇など、互いに正反対の属性の物は互いに消しあい消滅する。

基本的に魔術はこの世界において誰でも勉強すればある程度は出来るようになり、色々な事に応用できる事から、日常生活には欠かせない物となっている。

魔法は、一応あるにはあるのだが、大昔に、ある1つの魔法が原因で元々は8つあったとされる大陸の内の2つが空間ごと消滅してしまつた為にこの世界を守護する神によって封印されたとされている。

しかしこの魔法は主人公達が居る時代的には太古の伝説とされており、最早おとぎ話である。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1362s/>

ある老魔術師の記憶

2011年10月8日23時29分発行